

メタ情報を用いた合成音声を伴う視聴覚メディア作成システムの検討

はじめに

音声合成技術の発展

文章+メタ情報

テキスト読み上げシステムが普及
音声は棒読み

→十分に情報を得ることの障害になりうる

→音声合成

声の特徴および感情を付加,声の使い分け
→視聴覚メディア,作成支援システムの提案

関連研究

STORIE(ストリエ, 株式会社 CeVIO(チェビオ, HMM
会社インデックス) 方式音声合成技術)

- ✓台詞はイラスト+吹き出し
- ✓話者の感情が推測しやすい
- ✓台詞と話者が一対一対応
- ✓ファイルサイズが小さい
- ✓多様な声質,発話スタイルの
音声を合成できる

メタ情報を含めた音声合成が可能

1. 「誰が,何を,どのように」が明確
2. 多様な音声を合成できる

→

- ✓ 話者の違い=男声/女声を使い分け
- ✓ 態度の違い=声の大きさや速さの変化
- ✓ 感情の違い=喜びや怒りによる声の変化

提案手法

✓ 読みあげたい文章

✓ +メタ情報

✓ +音声合成技術

→ 視聴覚メディアの作成

- ✓感情：喜怒哀楽
- ✓態度：強調、積極的、消極的
- ✓リンク：文章間の関係
- ✓特殊効果：BGM,SE,挿絵・映像



おわりに

問題点

- ✓ 手入力で全てのメタ情報の付加は大きな負担
- ✓ 合成音声の自然さと表現できる感情に限界

解決策

- ✓ システムが自動でタグ付けできる部分を増やす
- ✓ ボイスデータ作成を容易に出来る環境を整える